

2009（平成21）年のアメニティフォーラム3で「若すぎるから全く新しい実践報告」というタイトルで、全国の若手経営者が登壇したことから、福祉人材確保を支援する団体FACE to FUKUSHIは始まった。福祉業界の発展のために、若手にできることはないのか、そんな想いからのスタートであった。

まずは、全国の若手福祉従事者へのアンケート調査を行った。1000件近い現場の生の声が届いた。そこに書かれていたのは、日々の仕事にやりがいを感じていながらも、相談し合える仲間がない、というものであった。仕事の悩みを誰にも相談できず一人で抱え込む、悩みが大きくなり仕事へのやりがいも失う、そんな声であった。

調査をもとに、これから地域福祉を築きあげる若者が、もっと福祉の仕事で働き続けるにはどうしたらよいのか、メンバーで意見をぶつけあった。そして、全国各地で仲間づくりのフォーラムをつくることから実践が始まった。2011（平成23）年に佐賀県を皮切りにスタートしたフォーラムは、北海道、宮城、東京、大阪、沖縄と、全国各地に広がり、仲間の輪を広げていった。

FACE to FUKUSHIは、「日本のFUKUSHIを世界最高のWelfareに」することを理念に掲げ、これから福祉を牽引する若者の輩出に取り組んでいる。活動の軸は、福祉に関わる仕掛け、福祉で働く仕掛け、福祉で育つ仕掛け、そして、福祉でつながる仕掛け、の4つである。若者が福祉の仕事を知り、福祉人材として育つまでを一貫してサポートしていく。

ここ数年は、福祉で働く仕掛けに重点を置き、福祉人材確保のサポートを行っている。その中でも大きな取り組みが、新卒者対象

の福祉就職フェアの開催である。2014（平成26）年度から始めたこの企画は、昨年度は夏と春に東京で実施し、延べ500人もの学生が参加するイベントとなった。関東圏の福祉法人への就職だけでなく、北海道、北陸、九州など、全国各地への就職に結びつけることができている。今後は、全国各地で就職フェアを開催するとともに、出展法人や参加学生の数を増やしていくながら、福祉を志す学生が福祉で働く一つのきっかけとして大きな役割を果たしていきたいと考えている。

この活動を通して、福祉の仕事の魅力と可能性を改めて感じている。福祉の仕事は介護だけではなく、障害者や子ども、不登校、ひきこもりなど、地域で課題を抱える様々な人を支える仕事である。目の前の困っている人を支えながら、誰もが暮らしやすい社会をつくりだす、未来をつくる仕事である。また、福祉の仕事は、福祉×まちづくり、福祉×音楽、福祉×農業など、多種多様な掛け算ができる、可能性が広がっているのである。

福祉には、もっと若者を巻き込める可能性があると考えている。福祉が仕事として選ばれないのは、仕事が嫌だからではなく、知られていないからではないのだろうか。特に、知的・発達障害のある人を支援する仕事は、身近にそのような人がいない限り、触れる機会は非常に少ないのではないだろうか。

福祉に取り組む実践者一人ひとりが、自分たちの仕事を発信していく必要があるのでと思う。そして、もっと身近に福祉の仕事を体験できる機会を増やしていく必要がある。

福祉の仕事を当たり前にするために、実践者一人ひとりの発信する力が、今求められているのである。

（一般社団法人FACE to FUKUSHI 岩本恭典）